

## ラグビーの歴史

私たちは、マッセイ大学の「ラグビー文化講座」でニュージーランドの国技であるラグビーの歴史を学んだ。

ラグビーの起源は、1823年、イングランドのラグビー高校学校でフットボールの試合中、選手がボールを抱えたまま相手のゴール目指して走り出したことから始まった。

しかし、当時のフットボールでは、手を使うこと自体はルールとして許されていたので、ボールを持つことは問題にはならなかったが、ボールを持って走ることはルール違反だった。

1900年代に入り、様々な学校が独自のルールでそれぞれのフットボール（後のラグビー）を行っていた。それぞれの学校で違うルールの統一を目指した協議は長らく行われてきたが、1863年10月26日にロンドンのフリーメイソンズ・タバーンで、FA（フットボール・アソシエーション）とロンドンにある12のクラブの間で会議が開かれ、12月までに6回のミーティングを持って統一ルールの作成を行った。この統一ルール作成により近代サッカーが本格的に誕生した。このとき、一部のクラブの代表が、ボールを持って走ること、ボールを運んでいる相手にハッキング（すねをけること）、トリッピング（引っ掛けてつまずかせること）およびホールディング（おさえること）を行うことが認められなくなったことに合意できず、FAを脱退した。これがラグビーフットボールとアソシエーションフットボール（サッカー）が分岐した瞬間である。

そして1871年、脱退した者たちによって、サッカーのFA（フットボール・アソシエーション、1863年設立）に対抗して、ロンドンでラグビー協会（RFU：ラグビーフットボール・ユニオン）が設立された。

今日、ニュージーランドラグビー代表チームであるオールブラックスは世界No.1と言っても過言ではない。ラグビーの強豪チームであり、2013年から2014年にかけては全ての世界の国別代表チームに勝っている。ラグビーはニュージーランドの国技であり、試合の前に踊るニュージーランドの先住民マオリ族の伝統的な出陣の踊り「ハカ」は、自軍の士気を高めるものとして有名である。



ラグビーミュージアム館内（左・スティーブ館長）

